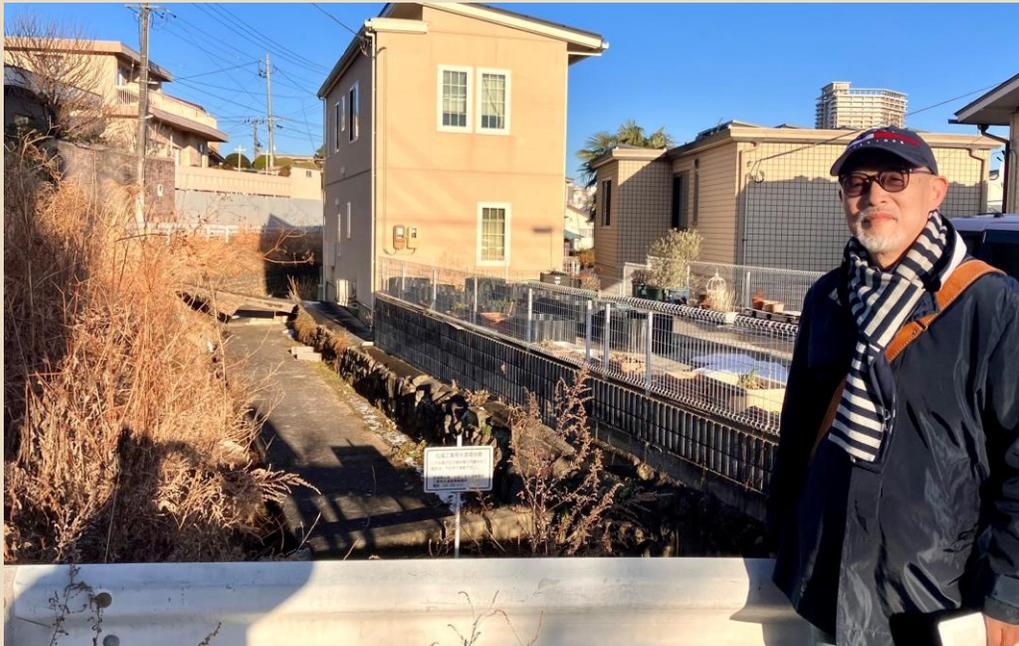


ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 〔2023年3月7日放送分・江戸町／坊主町〕

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩き達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 新シリーズ「四ツ谷用水を追う」3回目は、大崎八幡宮の東側にある龍寶寺の参道下からスタート。



- 橋の下に四ツ谷用水の暗渠が通っています。実は暗渠にも、石のフタがされているなど分かりやすい所と、歩道の下を流れていたりして、分かりにくい場所があります。見分け方の1つに、本来車道の両側に均等にあるはずの歩道が、片方だけ幅広いということがあります。その下には何かあるかも？！実際、今回の辻標「江戸町／坊主町」近くの歩道も、地下には四ツ谷用水の本流が流れているのです。

- コーナー33本目の辻標から。江戸町は仙台開府の際、江戸から召し抱えられた大工の棟梁・黒瀬政則という人が、故郷をしのいで付けた町名です。この人物は仙台藩に重用され、名字帯刀を許された士分でした。子孫は、戦後まで江戸町に住んでいたそうですよ。坊主町は、武家や城中の雑用係をした、いわゆる「茶坊主」と呼ばれる人々が住んだ町でした。元々、仙台城に近い川内亀岡にありましたが、亀岡八幡宮が現在の青葉区錦町から移ってきたため、押し出される形で八幡町界隈に引っ越したという事でした。

〈文・佐々木淳吾〉

- この辺りの四ツ谷用水は、河岸段丘の裾を微妙な高低差を利用して流れています。その流れをたどると、等高線が見えてくるイメージです。もう少し下流の北六番丁に出ると、町割りに沿った直線的な堀割りになるのですが、今回はここまで。いずれまた、ご紹介しましょう。

